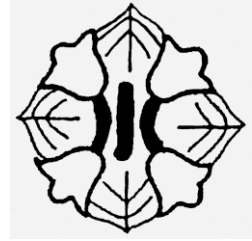


別海町立上風連小学校 学校だより

上風連の子



No.9 平成25年11月26日(火) 発行責任者 校長 菊地 祐一

学校ブログのアドレス <http://www.aurens.or.jp/kids/>

“「早くしろ」 一万人に 問いかけて 早くなった子 一人もおらず”

上風連小学校長 菊地 祐一

先日のPTA研修会に参加して下さいました保護者の皆様、ありがとうございました。前別海町教育長・山口長伸先生を講師にお迎えし、大変貴重なそして色々と考えさせられるお話を聞くことができました。山口先生は、昔からたくさんの歌を作られているのですが、その中にとっても印象に残る歌がありましたのでご紹介します。

～「早くしろ」 一万人に 問いかけて 早くなった子 一人もおらず～
作：山口 長伸

親はもちろん、我々教師にも耳の痛い話でした。ついつい、口にしてしまう「早くしなさい」。なぜ、言ってしまうのでしょうか。これはまさに大人中心の思考です。早くすると得をする・楽をするのは子供ではなく大人なのです。子供にとっては、早くする必要性が何もないからゆっくり、のんびりと動くのです。本来子供はあまりゆっくりとした行動はしないものです。落ち着きがないと言われるように、何かに興味を示したら、それに向かって直進する活動的な姿が子供なのです。なのに、大人の都合で（もちろん、それだけではありませんが）「早くしなさい」と時間短縮を目標にした指示をしてしまいがちです。この歌の通り、仮に一万人の子供に問いかけても自ら早くする子はいないでしょう。「～しなさい」という指示がなくても、子供から「～したい」という声が出るように、学校も家庭も今一度大人の行動を振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

今週の28日(木)に上風連小学校で別海町複式教育共同研究会・公開研究会を行います。子供たちの学習の様子を町内外のたくさんの先生方に見ていただき、これからの授業に活かしていく先生方の勉強会です。どのような授業をすると子供たちの力が最大限に発揮できるのかを本校の教職員で数ヶ月かけて話し合い等を行ってきました。

しかし、どんなにいい授業をしても、子供たちが「楽しい」「わかった」「おもしろそうだな」等と感じなければ、学習をする意欲が沸いてきません。先ほどの「早くしろ・・・」の歌同様に、子供自ら自分の意志で動かなければ学習も伸びないのです。学校では子供たちが少しでも意欲を持って学習に臨めるよう、日々授業改善に取り組んでいます。ご家庭でも子供たちが学習している姿やその成果（頑張った所等）に対して評価をしていただけたら、きっと「はやくしなさい！」の言葉は段々少なくなってくるのでは・・・。よろしく願います。それでは、最後に一句。

「自分から やってみたい してみたい 上風連の子 ひとみ輝く」

「楽しんで 脳を動かす 楽脳(らくのう)で 子供伸ばした 酪農地域」

・・・お粗末でした！」

